

伊勢原野球場と多目的グラウンド

念願の人工芝に

練習環境が飛躍的に向上



▲ 人工芝に生まれ変わった野球場。バックネット前には「Senshu」のロゴが

▲ 緑鮮やかな多目的グラウンドと野球場

伊勢原体育施設(神奈川県伊勢原市西富岡)の野球場と多目的グラウンドが人工芝に生まれ変わった。両グラウンドを練習場とする野球部とラグビー部は、いずれも今シーズンから1部リーグ復帰を果たしている。人工芝の誕生は選手たちの念願。今シーズンの活躍が期待される。

人工芝の整備に伴い、野球場には電光掲示のスコアボードが新しくなるなど、施設環境がさらに充実した(野球場・人工芝1万2254平方メートル、多目的グラウンド・同1万477平方メートル)。

野球部の高原悠将(商4)は「雨降りのあとは半日かかって水を出す作業をしなければならなかったので、練習時間のロスがあった。人工芝になって雨天後もすぐに使えるようになり、練習時間が大幅に増えた。素晴らしい環境となり、全員が喜んでいる。なによりも神宮球場と同じ条件でプレーできるのはうれしい」と話し、「1部で優勝を目指し一勝一勝を積み重ねていきたい」と目標突破を誓った。

またラグビー部の小俣勇也主将(経済4)は「人工芝と旧来の天然芝の両グラウンドを使えることになり、天候に左右されず練習できるのは大きな喜びだ。人工芝でひざや足首などへの負担が解消されるようになった。新しいグラウンドを生かすのは選手なので、気を引き締めて練習に励む。リーグ戦で3勝して大学選手権出場を目指したい」と前を見据えた。

人工芝完成披露会は3月6日、伊勢原野球場で開かれ、富山尚徳専務理事、石崎徹体育部長(経営学部教授)ら関係者40人が出席。野球部、ラグビー部両部員も多数参加して祝った。



▲ 完成披露会で会場を沸かせた始球式(投手・佐藤猛専務理事、打者・石崎体育部長)

経営学部特別賞

丹保さん、池永さん 優秀賞は8人

学術・スポーツ、課外活動などで活躍した学生をたたえる経営学部の学部表彰式が3月20日、生田キャンパスで行われ、10人に馬場杉夫学部長から表彰状が贈られた。

今回は特別賞と優秀賞の2賞を対象に表彰。学術、スポーツの分野で活躍した学生に贈られる優



▲ あいさつする丹保さん

躍した学生に贈られる優秀賞に対し特別賞は「社会知性の発揮」を目指す経営学部の教育理念にのっとり活動し、社会に発信した学生に贈られるもので2人に贈呈された。

表彰式の前に馬場学部長、大曾根匡教授を囲んで茶話会が催され、受賞者は、今後の目標、意気込みや後輩へのアドバイスを語った。

特別賞受賞の丹保歩子さんは昨年11月、静岡県磐田市で開かれた情報システム学会で研究報告を行った。学会の参加者は教員や研究者がほとんどで、学生のExecutiveの習熟度把握を目的とした標準テストの開発について発表。「貴重な体験となりました」(丹保さん)。

4月から故郷の石川県で大学入学からの念願が目標だ。「一人一人の生

▲ 馬場学部長を中心に受賞者の皆さん



だった高校の教諭に。ブルースバンドの打楽器奏者として打ち込んだ高校時代(石川県輪島高)に出会った部活の顧問の先生が目標だ。「一人一人の生徒をよく理解し、生徒の可能性を引き出す教師になりたい」と引き締まった表情で抱負を語った。

受賞者は次のとおり。敬称略(カッコ内は表彰時の学年、ゼミ、所属クラブなど)。

特別賞▽丹保歩子(4・大曾根ゼミ)▽池永慧(4・齋藤実ゼミ)

優秀賞▽久保圭吾(4・公認会計士試験合格)▽和田賢門(4・同)▽西井遼太(4・2014男子世界フリアポール大会に出場)▽石川謙太郎(3・スキー部)▽近藤太郎(2・スピードスケート部)▽土屋長輔(2・同)

▽藤中謙也(3・バレーボール部)▽与那朝竜太(2・レスリング部)

専大の歴史など ミニ展示で紹介

専修大学の歴史と神田キャンパス周辺の神田神保町地域を紹介するミニ展示が、4月5日から14日まで神田キャンパス5号館で開催された。写真。

同展示はパネル十数点により紹介され、靖国通りをかつて走っていた都電の「専修大学前」電停



防災講演会 & 体験会を開催

大地震に備え、的確に身を守る方法を学ぶ学生部主催の「防災講演会&体験会を開催」。

阿藤正道学生部長(商学部教授)が「東日本大震災から4年たち、東京では日常の生活に戻っているが、首都直下型地震は3分後に起きては不思議ではないことを認識してほしい」とあいさつ。「効果的な防災訓練と防



▲ 宮崎氏による講演



▲ 消火器の取り扱いを体験

災啓発提唱会議」事務局次長の宮崎賢哉氏が米国防祥の自発型防災訓練「シエイクアウト」について講演した。

シエイクアウトは家庭や学校、職場など普段の生活の場で、それぞれが地震の揺れから身を守る行動をとる訓練。身をかため、机の下などにもぐり、頭部を守る。日本で

は2012年3月に千代田区が初めて実施し、専修大学も学生部ボランティア推進委員会傘下団体「SKV」(専修神田ボランティア)などが参加した。宮崎氏は「ただ頭頂部を手のひらで履うのではなく、後頭部から首にかけてを腕でしっかり保護してください」と注意。学生や職員多数が訓練開始の音に合わせ、机の下に身を隠した。

引き続き、千代田区や神田消防署の協力で地震車・消火・AED取り扱いなどの体験会が神田キャンパスの広場で行われた。防災体験会は昨年に続き2回目。人体に無害な煙を充満させた煙体験ハウスでは「視界がきかない怖さがわかった」と話す学生が相次いだ。